

議会だより

120号
2017.11



キャラバンカーで読み聞かせ（8 / 1） 絵本の館前

一般質問 7名が登壇 これからの町政を問う ……………2～8P

第3回定例会 財政調整基金・減債基金に6千万円を積み立てる ……9P

常任委員会報告 **総務厚生** 高齢者福祉とボランティア活動の先進地事業調査 ……………10P
産建文教 土木調査の結果

町民インタビュー・親しまれる広報をめざして ……………11P

スポットライト「絵本の里を創ろう会」・全道広報研修会報告 ……………12P

問 レーク地域商社の進み具合は

答 経営の多角化で11月に
ネットショップを開設予定



高橋 毅 議員

高橋 毅 議員

レークサイドの大改修に合わせて地域活性化を目指し地域商社を作る計画を進めているところだが、事業を推進するには人材の配置と準備が大切だと思う。現段階での地域商社の進み具合は。

早坂町長

レークサイドの多角化の一環として地域商社を考えている。29年度は道の駅に業務課長が配置されたが途中からレーク全体のマネジメント業務が必要となったため、地域商社の事業着手には至っていない状況である。11月を目途にネットショップの研究、開設を目指し町の総合窓口として関係団体と協議し試行的に農産物、加工品を扱っていききたい。人材の確保が大切で熱心な人をハローワークや新聞などで募集していきたい。

農・特産物ブランド化と地場産業活性化事業の進捗は

高橋議員

農産物・特産物のブランド化でロゴマークも統一され全国に売り込むことを目標としている事と違うが、事業の進捗は。

早坂町長

ブランドマーク統一に伴う原版



統一された剣淵ブランドマーク

制作費の助成を行い、町内生産団体と加工グループ8団体がパッケージの更新を行った。生産団体以外でもブランドマーク使用申し込みが6件ある。今後剣淵町の認知度向上につながると思う。また、剣淵プロモーション動画を製作し札幌駅・地下街・札幌市内の公共施設で放映したいと考えている。農・特産物のPR販売は射水の道の駅・マツダ広島本社・北海道とさんこプラザで絵本の里けんぶちフェアを開催しPRを図りたい。キヌアを使用した健康食メニュー加工開発にも取り組みたい。

安全・安心・防災の環境整備を計り、移住定住を勧めては

高橋議員

昨年の集中豪雨で災害復旧費だけでも1億6千万円になる。近年異常気象が増えていることから災害に強い環境整備が必要である。また北朝鮮のミサイルにも学校・職場・町民向けのマニュアル作りをし住民の安全意識の向上に努めるべきと思うがどうか。

早坂町長

昨年の3度にわたる豪雨で町の財政も厳しさを増した。大雨に対応した排水ポンプ・自給式ポンプの配備を進め、自治会長・地域安全部長を対象とした講演会の開催や、北朝鮮ミサイルに対する住民の安心・安全を確保するのに、自助・共助・公助の考えを進めたい。



Jアラートに対応した防災無線放送機

問 今後の大型事業の予定は

答 計画にあるものは年度に こだわらず進めたい



武山啓一 議員

武山啓一 議員

剣淵町の財政予算はここ数年同じパターンでの編成となっているがもう少し長期的視野に立ったメリハリのある財政運営は考えられないか。

早坂町長

現在は、上下水道の基幹改良事業、橋梁長寿命化修繕事業を実施してきているが、今後公共施設の維持更新事業や学校施設の改修事業、ゴミ処分場の整備事業などがある。町の財政には限度もあり国の補助事業を利用して手をつけていかなければならない現状である。



老朽化の進む小学校外壁

武山議員

国の補助状況によっては断念する事もあるのか。

早坂町長

計画にあるものは断念ということ

とは基本的にはないが、緊急性のあるものや優先順位に従って進めたい。



拡張が予定されるゴミ処分場

武山議員

健全財政の名のもとに基金の取り崩しを行い、決算時には儉約をして残ったからと積み戻しをするスタイルばかりではなく発想を変えた事業形態も必要ではないか。

早坂町長

町の将来を考えたとき、どうしても慎重な形になっているが大型事業をやりたいという気持ちはある。

職員管理について

武山議員

ここ数年定年退職者があり、新採用職員も増加しているが、その反面この2年間だけでも6名位の職員が退職している。せっかく採

用しこれから仕事をしてもらおうとする矢先であり、これは行内での職員管理に問題があるのではないか。

早坂町長

退職理由は様々ですが、職場や職務への不適応の例も散見され、メンタルヘルスに問題がある可能性もある。職場ではストレスチェックも義務付け前から実施しているし、現在グループ制についても検証を行っているところである。町民の皆様迷惑をかけている部分でもあるので時間をいただきたい。

武山議員

最近職員数が減っているせいか職員の異動が早く仕事の内容が理解されていない職員が多く見受けられるので適正な職員配置と能力が発揮される体制を考えては。

早坂町長

基本的には適材適所と考えて配置をしているが、現代の若者感覚は難しい面もあるがその方向で考えていきたい。

武山議員は次の質問もしました
◎今後の町づくりと移住と定住について

問 小・中学生の血液検査を 実施する考えはないか

答 必要だと考えるが町長部局と相談し、
体制を整えることが大事



生出孝男 議員

生出孝男 議員

小学校4年生から中学3年生卒業までの間に、小学生の時に1回、中学生の時に1回の回数で血液検査を実施することで体調の異常を早期発見できる。そのことで子どもの成長期の安心と早期発見につながり、健康管理にも役立つと思うが実施してはどうか。

半田教育長

学校での健康診断は国も血液検査の項目を含めていないので、今のところ実施していく考えはないが、今後、学校と家庭、教育委員会、さらに保健行政が連携を取りながら児童生徒の生活習慣病の予防の点から健診に基づく異常や疾



健診の写真はインターネットから引用しました

病の早期発見、早期治療、個別の健康指導体制を整えて児童生徒の健康教育と健康管理に役立てていく必要があると考えている。

今後どういことが可能か、実施する場合に課題があるかなど実施自治体の事例を基に研究したい。

生出議員

生活習慣病が子ども達の中にできてきていることから血液検査が必要。道内よりも道外の方が先進的に実施している。血液検査をすることによって子どもの健康状態を把握でき親も安心できることであり、是非進めていく必要があるのではないか。

半田教育長

児童生徒の生活習慣病予防対策として私も必要だと考えている。保健行政と学校とが連携、そして健康教育や健康管理を行っていく体制が必要なことなので、町長部局に相談をしていきたい。

職員の新規採用は 人事計画の中で

生出議員

今年度は77名の正職員で行政事務を執行しているが、新採用職員

の中途退職、体調不良での休職、労働組合関係での休職、そして幹部職員の中途退職で行政事務の執務上、職員によっては非常に負担を強いられているのが現状ではないか。これを解消するために、民間から町職員へ、特に中堅職の中途採用を思い切つてすること来年度へ向け新採用も予定より増やすことが必要ではないか。

早坂町長

行政運営上支障をきたす状況は紛れもないことで、9月1日付けで民間からの青年を職員として採用した。しかし、中途退職者の増加で中堅職と技術職が不足しており、中堅職で補充できる条件が整えば補充していきたい。

新規採用は人事配置計画の中で考え、退職者の補充を基本に行っている。また、公務員の再任用制度もあるので一定期間は職員として働いてもらっている。再任用も定数に含まれるので調整しながら採用は考えていきたい。

生出議員は次の質問をしました。
・防犯カメラの設置について

問 スマホなどの利用の弊害を 知らしめ家庭にも指導すべきでは



卯城規伊 議員

答 子どもと一緒にルールを決め 家族で守ることが重要

卯城規伊 議員

多くの児童や生徒達がスマホやタブレットなどの情報通信機器を持ち、学校や家庭でもパソコンに触れる機会も多い。そうした中、学力の低下や生活習慣の乱れへの影響が危惧されている。この現状をどう捉え、学校ではどう対処しているのか。

半田教育長

子ども達、自らが人生を切り拓いていくには学びの基礎となる情報活用能力が必要とされ、情報についての教育が重要と捉えている。ネットトラブルやネットいじめなどから、生活習慣の乱れを引き起こさないためにも適正な使用に向けたモラル教育を実施することが必要である。

情報教育では学校においてホームルームなどで指導、専門講師を呼びネット利用に係わるモラル教室を小・中・高それぞれ実施、検索語を用いて生徒などが不安定な形態の使い方をしていないかをチェックするネットパトロールなども行っている。

卯城議員

ある研究機関が2013年から

実施した小・中・高校生約7万人を対象にした調査結果によると、スマホの利用を1日1時間未満であれば学力が上がり、1時間以上を超えると学力は下がり始め、使えば使うほど学力が低下するとある。長時間使用すると睡眠時間や家庭学習にも影響し、生活習慣の乱れに繋がる。そのことを先生や保護者が子ども達にしっかりと教えていくことが大切と思われる。家庭に帰ってからの使用は把握が難しいことから家庭での過ごし方、保護者の役割が特に大きいと考えるが教育長はどう捉えているか。

半田教育長

子ども達がそのことを学んで、過剰な利用をしないなどの取り決めを自分達で決め、そのことを家庭に持ち帰り、保護者に説明して家庭で一緒にそういう取り組みを進めることが重要である。子どもに早く寝なさいとあって、親がゲームを続けているようでは子どもの身にはつかないので、新しい町づくり運動の中で一定以上のメディアに接しないという取り組みを進めているところである。

卯城議員

子ども達と相談しながらルール

を決めている家庭もあると思うが、子ども任せの家庭もあると思われる。スマホなどの利用の弊害を知らしめ家庭にも指導すべきではないか。

半田教育長

現在、「メディアに触れる時間を2時間以内」というのが全国共通の目標となっているが、町内では2割程度でしかなく、学校では達成されないのが家庭と一緒に進めていく呼びかけをしている。家庭での利用のルールを決めているとした中学生が7割、高校生が4割との結果が出ている。親同士で一定のルールを決め家族で守るといったことが重要と考え理解を進めていきたい。



タブレットとスマートフォン

問 移住定住希望者が検索し易い 仕組みづくりを

答 移住希望者の目線での 情報発信に心がける

大澤秀明 議員



移住定住者向けパンフレット

大澤秀明 議員

移住希望者向けパンフレットが完成し4月から各方面に配置されているが、実際に移住希望者がいるのか。また、今後の移住定住促進のための具体的な方策は。

早坂町長

中小企業U-Jターン就業奨励金支給事業が有効に活用され、これまで11人が剣淵に移住し働いている。人口減少抑制策は地方版総合戦略を策定しそれに基づいて推進していて、引き続き移住希望者目線の住まいや、支援の情報を発信したい。

大澤議員

情報発信についてパンフレットの中身やホームページの中で支援策や住居情報がまだまだ検索しにくい。定期的な検証と更新が必要ではないか。

早坂町長

見にくい部分もあるように感じるので改善していきたい。

大澤議員

町内の空き地空き家対策が遅れているため、町内で働いているにもかかわらず、町内に住めずに町外に家を建てている人もいる。ホームページに掲載している空き家バンクには個人取引の売り地等が一部含まれていない。一つに集約して希望者が検索しやすい仕組みを作るべきではないか。

早坂町長

それぞれの事情もあり難しい部分もあるが、町のホームページに集約して掲載することと現地状況を確認し、現場との整合性を図りながら進めたい。

大澤議員

下川町では国のモデル事業の空き家対策があり、これには事業に関わるそれぞれの専門家を含めた官民一体の検討委員会を立ち上げ

ている。剣淵でも官民一体の検討委員会を立ち上げ町の空き地、空き家の問題を共有し課題解決の方策を練っていくべきではないか。

早坂町長

近隣町村の例を参考に検討していきたい。

大澤議員

現在町では住宅の新築で60万円、改修で30万円の補助金が出る。近年は建築費用が増加傾向にあり、多額の助成金を出す自治体もあることから助成額を一度見直す必要はないか。

早坂町長

財産形成という部分に予算を充てていくのは非常に難しいが事業を開始した頃から見ると、様々な面で状況も変わっているので助成額が適正かどうか慎重に検討したい。

大澤議員

全国の自治体には公営住宅で子育て世代の家庭には家賃の減額措置を取る政策等様々な方策がある。剣淵も人口維持対策として様々な視点から考えていくべきと思うが。

早坂町長

その通りだと思うので、色々な部分で検討を重ねていきたい。

問 オムツ交換所や多目的トイレの充足をどう進めるのか

答 屋外用のオムツ交換 TENT を購入した



畠山弘美 議員

畠山弘美 議員

町内では多種多様なイベントがある。規模の大小や屋内、屋外を問わずイベント開催時には授乳室やオムツ交換所、多目的トイレが必要だと思う。これらの環境整備をどのように進めていくのか。また、役場庁舎内に多目的トイレや授乳室がある事を知らないため、イベント主催者が来場者に案内ができない状況をどう考えているか。

早坂町長

昨年5月に屋外で使用できる授乳やオムツ交換用のテント一式を観光協会が購入している。イベントや一般利用者に貸出し可能であり、利用促進のため住民に周知するよう観光協会に伝えてある。

庁舎内の多目的トイレは40年前のもので、扉はアコーディオンカーテン仕様である。引き戸できちんと鍵のかかる戸に改めるなど、利用者が落ち着いて使用できるように検討を加えていきたい。

多目的トイレや授乳室などの配置図を作成し、イベント主催者に渡したり広報で住民に周知したい。

畠山議員

イベント開催時には簡易的でも

よいので、授乳室やオムツ交換室を設けたり、場所の表示を積極的に実施するのがよいと思う。

主催者にベビーベッドや小布団、案内表示板など整備一式を貸し出す考えはないか。また、授乳室などの部屋の料金を徴収しないという考えはないか。さらに、イベント主催者にオムツ交換室などを積極的に設置するよう周知する仕組みづくりを考えていないか。

早坂町長

ベビーベッドや小布団が必要な貸し出すことも検討できると考えている。授乳や赤ちゃん休憩に限っての部屋の使用は「町長がその理由を認めれば減免することができる」という項目があるので所管課と相談して進めたい。イベント時の環境整備については、庁舎内の配置がわかる1枚の案内紙を作成し、会場使用願いが提出された時に主催者に伝えたり用紙を渡すよう所管課に指示をする。

畠山議員

住民にもイベントの来場者にも「剣淵ってがっかり」と思われないうち、色々と工夫を重ね子育てに優しいまち、福祉のまちを築くべきと思うがどうか。

早坂町長

今後も障害者や子育てに配慮した整備を順次行っていきたい。ちよつとした配慮で対応ができることはたくさんあると考えている。



貸出しが可能な授乳、オムツ交換TENT



役場1Fの多目的トイレ

問 レークサイド桜岡の現状と今後の考え方は

答 厳しい状況だが経営の多角化により
3セクの役割をしっかりと果たす



高橋一博 議員

高橋一博 議員

(株)レークサイド桜岡は平成5年に開業以来、平成16年以降厳しい経営状況が続いている。将来も施設を存続するには多額の累積赤字解消の抜本的施策が必要と考えるが社長である町長の持続に向けての施策を伺いたい。

早坂町長

(株)レークサイドは住民保養施設だけではなく町外からの観光需要、地域への経済効果の重要拠点と位置づけてきた。しかし経営環境は依然と厳しい状況が続いている。経営改善に向けて地方創生総合戦略として宿泊棟の2階、3階のシングル化改修工事を進めている。また、海外からの旅行客獲得手段としてネットでの客室販売も積極的に取り組んでいる。

また、道の駅を軸とし経営の多角化にも取り組む考えだ。累積赤字については、指定管理費の適正な設定や経営安定化対策を活用し一定の支援が必要と考えている。

高橋議員

経営改善等の方向性や考え方がレークサイド全体で共有不足と思うが町長の考えは。

早坂町長

昨年は業務課長も含め人材探しの1年であったと思う。接客姿勢も向上してきており積極的に働いていると思う。

高橋議員

第3セクで運営している以上町が経営を、現場は働く環境を整備し従業員がお客さんに最高の笑顔をもって迎えるといった抜本的な住み分け、割り切りが今後大切と考えるが運営が3セクということに対しての考えはどうか。

早坂町長

第3セクターの性質上、融資もスムーズで、町も何らかの支援を考えている。シングル化の改築に合わせて改善策を検討したい。

高橋議員

経営の状況把握や情報の共有を強めるためにも月1回の訓示の他にも、管理職のみでなく末端まで働く人との情報共有が益々大事と考える。役員、従業員が共に経営に対する意識が共通でなければならぬ。そのためには第3セクターの意味を最大限従業員に理解してもらったことが持続可能な施設の

継続に繋がると考えるがどうか。

早坂町長

レークサイドは周辺も含めて当時全体で50億円の大施設でもあるので残すべきと考える。それと第3セクターという事を割り切つて今後の経営を考えていきますし、そのためには現在実施している地方創生の流れをしっかりと取り入れてやっていきたい。



経営の多角化をめざすレークサイド

条例改正

- 町営住宅条例の一部改正
内容は、条例で引用している法令の改正による条ブシの改正です。 可決

補正予算

- 一般会計に8,647万円を追加しました。
主な内容は財政調整基金と減債基金に6,000万円を積み立てました。他には農地排水機能向上対策に111万円、起業化支援に300万円、労務と燃料単価上昇のため除排雪業務に436万円などです。 可決
- 国民健康保険事業特別会計に84万円を追加しました。
内容は国庫負担金等精算返戻金などです。 可決
- 介護保険事業特別会計に1,357万円を追加しました。
内容は国・道負担金等精算返還金などです。 可決

規約の変更

- 道市町村職員退職手当組合他2組合の規約変更
内容は加盟団体の名称変更に伴う変更です。 可決

任命

- 教育委員会委員の任命
次の方の任命について同意しました。
山根 昌美氏 仲町10番3号 (再任)
- 人権擁護委員の推薦
次の方の推薦について適任としました。
鴻野 瑞節氏 仲町34番2号 (再任)
山口 茂樹氏 屯田町258番地 (再任)

報告

- 平成28年度普通会計健全化判断比率及び公営企業会計資金不足比率の報告
剣淵町では全て健全会計です。

発議

- 次の3件の要望意見書を採択しました。
 - ・道教委「新たな高校教育に関する指針」を抜本的に見直しすべての子どもにゆたかな学びを保障する高校教育を求める要望意見書
 - ・義務教育費国庫負担制度堅持・負担率1/2への復元、子どもの貧困解消など教育予算確保・拡充と就学保障の充実、「30人以下学級」の実現をめざす教職員定数改善に向けた要望意見書
- 2件の要請団体：連合北海道剣淵地区連合会
 - ・全国規模の総合的なアイヌ政策の根拠となる新たな法律の早期制定を求める要望意見書
- 要請団体：公益財団法人北海道アイヌ協会

請願書

- 請願者：刈分川全面改修期成会会長 鈴木一男
- 紹介議員：高橋一博
- 件名：刈分川改修に関する請願について

請願主旨：刈分川は昨年の7月31日の2時間余りで92.5mmの集中豪雨等により大きな被害があり、河川の氾濫により多くの農地が冠水し、農作物に壊滅的な被害をもたらしたところである。

この水害を受け、関係者が協力して恒久的な治水対策を計画的に進めるため、刈分川全面改修期成会を今年2月に組織し、今後の本格改修を前提とした予算確保を要望するもの。

請願事項：刈分川改修に向けて、河道計画や現況測量等を含む基本計画着手に向けての調査、予算の措置について、議会で採択され北海道や剣淵町に強く働きかけ、早期実現に向け取り組むこと。



早期の改修が望まれる刈分川

総務厚生常任委員会所管事務調査報告

1. 調査日

平成29年8月7日～8日

2. 調査事項

高齢者福祉とボランティア活動の先進地事業調査について

3. 調査の所見

本町のボランティア活動は、社会福祉協議会主体の「ふれあい広場」「ふれあい昼食会」「いききルーム」等様々な事業を展開しているが、そのボランティアは2団体の登録だけで、個人の登録ボランティアも高齢化により減少し、担い手の育成拡充、人材確保が急務である。

ボランティア活動は福祉に関わるだけではなく、ほかの様々なボランティア活動に対象を広げ、町民みんなが関わりをもち地域社会を構築していることからそれらに対して支援をすべきであると考ええる。

現在誰もがボランティア活動に限界を感じてきているため、有償ボランティア制度を創設し、

その中でボランティアポイント

を発行して、商品券と交換出来ることによつて、活動に継続性がでてくるのではないかと思う。

剣淵は人・農業・福祉に優しい、まさにノーマライゼーションを絵本によるまちづくりを通して実践してきた。少なからず高齢者や障がいを持つ子ども達も剣淵にもあり更なる充実を検討するよう望む。



由仁町にての研修

1. 調査日

平成29年8月25日

2. 調査事項

町内土木調査

3. 調査の所見

9自治会から要望のあった51件中14件を現地調査し7件を実施可としたところである。

ほとんどが農村部の側溝、法面河川に関する要望箇所でありましたが、今回の調査では、地先で草刈り等を行つていて確認しやすくなつている所やそうでもない所もあり、今後調査時には確認しやすいように協力をお願いしたい。また町の管理下なのか不明な所もあり今後検討が必要と思われる。

町道の立木に関しては、枝が道路に入り込み見づらく交通安全上の問題がある箇所もあるので、全町的に定期的な巡回が必要と思われる。

本年は昨年のような災害はなかったものの近年予想を超える

産建文教常任委員会所管事務調査報告

災害が、各地で多発しているこ

とから、本町においても日頃から防災意識の啓発と災害時の対応について、再確認を強く望むものである。

昨年の大雨被害箇所の復旧もほぼ完了しましたが、限りある予算を有効かつ効率的にそして緊急性に配慮し対応すべきである。



土木調査のようす（西岡町）

親しまれる広報をめざして

町民インタビュー

インタビュー 項目

- ① 興味を感じる記事は
- ② 紙面の良い点・改善点
- ③ 町や議会に対するご意見

みんなの声まちづくり

公共施設のトイレにはベビーキーパーが必要だと思います

西原町 櫛谷 妙子 さん



- ① 特に子育て、教育、福祉に関する記事をよく読んでいます。
- ② 分かりやすく見やすいです。行事も詳しく書かれているのでよいと思います。
- ③ 診療所トイレにベビーキーパー（赤ちゃんを座らせておくイス）があると助かります。レークサイドに高温と低温の浴槽があればよいと思います。中学生まで医療費無料化は継続してほしいです。

中小企業職業体験の効果がる施策を

緑町 西尾 雄太 さん



- ① 商工関係の記事、農業関係の記事などを中心に写真や見出しを参考に読んでいる。
- ② 農業の町らしく、農業関連の記事、写真が多くていいと思う。
- ③ 商工業者も人手が足りないので、職業体験者を募集できる制度を充実させ、またより効果的なものになるよう町にも施策を考えてほしい。

スポットライト

けんぶち絵本の里を創ろう会

まもなく結成30周年
を迎える創ろう会



創ろう会によるクリスマスパーティー

けんぶち絵本の里を創ろう会は、
来年6月に、結成30年を迎えます。
まちを何とか元気にさせたいと思
う一心で、30代、40代の「絵本を
知らない」男性有志により、土別
市在住の版画家の力を借りながら
会を結成し、活動を始めました。
当時は農業情勢が大変厳しいとき、
ふるさと創生資金（1億円）を使
つての活動には、厳しいご意見が
あったことは事実で、当時の町長
の一言により、農業と絵本に、そ
れぞれ5千万円をあてることにな
り、この資金を活用して、絵本や
絵本の原画を購入、旧役場庁舎を

改修した「絵本の館」が開館し、
活動拠点ができました。

結成当時から今日まで、町民の
皆様、各機関・団体、そして行政
の深いご理解とご支援をいただき
ながら、数多くの出版社及び絵本
作家の皆様のご協力により、30年
の歴史を創ることができました。
心より感謝を申し上げます。

長年の活動を経て、今では「絵
本の里けんぶち」は当たり前の前
うに使用されるようになりましたこ
とは、結成時、活動初期時に奔走
した会員の苦労が報われます。30
年の節目を迎えますが、会員の減
少は、多くの団体・グループの共
通課題です。活動のあり方を含め
行政とともに、今一度原点に振り
返り、見つめ直すことも必要なこ
きではないかと思えます。

「絵本の館」を中核とした「絵本
の里づくり」は、今後も剣淵町の
まちづくりの中心となし、息の長
い活動をしたい思いから、これか
ら町民の皆様、各機関・団体、
行政のご支援をいただきたく、お
願い申し上げます。

けんぶち絵本の里を創ろう会

会長 下田秀樹氏 寄稿

全道議会議員広報研修会



広報研修会（仁木町にて）

8月22日に全道広報研修会
がポールスター札幌で開催され
ました。「議会がもっと身近にな
る広報紙づくり」と題し広報アナ
リストの吉村潔氏から10町村より
出された議会広報紙を検証、評価
されました。剣淵町議会だよりも
初めて評価を受けました。議員自
ら作成しているのは全道でも珍し
く、その中で写真や文章のまとめ
方の指導を受けました。23日は余
市郡仁木町議会広報編集特別委員
会を訪ねました。仁木町は全国議
会だよりコンクールで3位になる
など読みやすくなりやすい広報
紙づくりを行っています。委員同
士意見交換を行い広報紙づくりの
テクニクを教わりました。今後
の剣淵議会だよりを活かしてい
たいと思えます。

編集後記

本号で私たちの広報委員の任務が終
了します。議案審議、議会関連事項、
町民インタビュー等、議会を少しでも
身近に感じてほしいの一念で広報委員
一同頑張りました。企画、レイアウト、
調査、編集、校正、印刷発注等すべて
広報委員の思いと責任感で作してい
ます。改選後も「議会だより」の愛
読をよろしく願います。



広報委員のメンバー

広報委員長	高橋 一博
副委員長	大澤 秀明
委員	武山 啓一
	高橋 弘毅
	山崎 美